

本が生まれるまで

司会 『どうぶつえんにいこう』と『すいぞくかんにいこう』をお書きになった動機を、まず聞かせて下さい。

福武 動物園・水族館や博物館など、立派な施設はたくさんあるけれども、それを「見に行く人」と「作っている人」の意識がとても離れていると感じていました。私は以前に水族館で飼育員として勤めていたのですが、不思議なことに当時はそのことについてあまり深く考えていませんでした。会社を辞め自身が「作っている人」から「見に行く人」になり、あらためて感じたことを、たくさんの人々に楽しい形で届けてみたいと思ったのが始まりです。

川那部 二冊のうちどちらが、作りやすかったですか？ やはり経験のある水族館の方でしたか？

福武 いいえ、水族館に在職していたときの私の専門は海生ほ乳類の飼育調教だったので、当時は魚類についての詳しい知識はあまりなく、本を作るにあたっては、一から勉強しなければならぬ部分が多かったのです。『すいぞくかんにいこう』の方が『どうぶつえんにいこう』に比べ、ずいぶん時間がかかってしまいました。それに動物園は日本全国北も南も同じような感じで、共通項が見いだせませんが、水族館は場所ごとにテーマがそれぞれ異なっているんです。苦勞が多かったです。環境や生物の多様性をつく



館長対談

動物は動かない!?

2003年12月17日(水) 琵琶湖博物館館長室にて

司会進行 / 松尾 知・亀田 佳代子

く実感させられた仕事でもありません。川那部 なるほど。しかし個々の生きものを超えた楽しさが、なかなか良く描かれていますね。

水槽の「うち」と「そと」

川那部 私は湖よりも川で魚を見てきたことが多いのですが、そのような目で見ると、日本の水族館の魚の密度はとんでもなく高いですね。琵琶湖博物館の水槽展示も、ある程度同じです。実際には、あんなにたくさんいることはあり得ない数ですよ。

福武 そうですね。フィールドではどこにいるのか、こちらが一生懸命さがさなければならぬ生きものの方が多いですよね。

川那部 それからもうひとつ、本当は澄んだ水のところにいるはずのない魚、泥などで濁ったところだけに棲んでいる魚が、水槽の中にいます。

福武 それも「ほんとうはあり得ない」状況ですよ。でも私たちが「見に行く人」は見えないとイヤなのでそんなことは気にかけないし、「たくさんいて当たり前、きれいな水で当たり前」だと思っっているんです。透明度のほとんどない揚子江に生息しているヨウスコウカワイルカだって、私たちにいかかっつてしまえばめっちゃクリアなお水の中で暮らさなければならぬようになります。イルカにとっては違和感いっぱいでも、「見に行く人」は誰も、きれいな水でかわいそう

琵琶湖博物館館長
川那部 浩哉

福武さんの本は、生きた動物を
生きたものとして見て欲しい、
そういう考えから生まれたもの
ですね。



なんて思ってくれない。

川那部 だからうちの水族展示に、本当の棲み場所ではこれぐらいの数が精一杯だとか、この魚は実はこんなに濁ったところにしか棲んでいないんですよ、というような水槽を、ぜひそのうち作りたいのです。

福武 すごく意地悪な水槽で、いいですね。

川那部 当館は、「野外へのいきなりの博物館」だと公言しているわけですよ。だから、きれいな水の中にたくさんさんの個体がうようよいる水槽だけではなしに、せめて、野外での魚の棲み方が疑似的にも見られるようなものを作りたいし、そうすべきだと思っつのです。

福武 最近の動物園でも、動物たちの「見られるストレス」を軽減しよう、広い展示敷地内に植生をたくさん配置して動物たちが隠れられるようにしはじめています。その活動の運命は私たち「見に行く人」がどれぐらい「見えないストレス」を乗り越えられるかにかかっていると思います。

動きを見ない観客 動かない動物

川那部 先日沖縄の水族館を見せて頂いたのですが、広い空間をいろいろな魚の群れが動き回っているのは壮観でした。ところが、その水槽を長い時間見続けている人は少ないんです。「あつ、すごい」とか言って、右から左へふつつの速度で歩くだけ。いや、動いていることを確認できたら充分で、どういつように動くのか、つまり本当に生きているのかどうかには、ほとんど興味がないのではないかとさえ思いました。

福武 動物園でも、一個体ずつ観察してみればとても楽しめるけれど、みんな「あ、カバ、カバ」とか言いながら、さっさと通りすぎちゃうんです。そういうのを見かけると、剥製にすりかえちゃっても、誰も気がつかないんじゃないかと。……とにかくそこに五分立つて見てろっ！って、きつと私がかバだったら、そう吠えますね。
川那部 そうか。福武さんの本は、生きた動物を生きたものとして見

て欲しい、そういう考えから生まれたものですね。

福武 私が勤めていた水族館のペンギンも毎日ひなたぼっこばかりして、通り過ぎるお客様から「剥製」呼ばわりされていました。南米のチリで野生のフンボル

トペンギンを観察したことがあるのですが、野生状態でペンギンが活発に動くときというのは、餌を捕りに行くときぐらいなんです。海に入って、胃袋を魚いっぱいにして帰ってくる。繁殖期がくれば求愛行動をしてつがいをつくんだり、巣をつくる。卵を産めばそれを抱いて、ヒナがいれば胃の中の餌をもどして与える。彼らの生活はただそれだけ。毎日その繰り返しであとはなんにもしない。だから、時間通りに餌がもらえる動物園や水族館では、必然的に動かなくてもよくなってしまつんです。

川那部 それはおもしろい。イギ

タツノオトシゴは、ただぼーっとしているように見えますが、よく見ると透明なヒレが一生懸命に絶え間なく動いているんです。

絵本作家・イラストレーター
福武 忍氏

1969年兵庫県生まれ。4年間の水族館勤務でつちかっただ経験と観察力で描く、動物のコミカルなイラストが大人にも人気。著書に『どうぶつえんにいこう』『すいぞくかんにいこう』(文溪堂)などがある。



リスにエルトンさんという生態学の先生がいましたね。その人が一九二七年に書いた本に、「動物は、たいていのは何もしないが、活動し始めるとそれは、質のいい餌をたくさん食べるためだ」とあるんです。

福武 そう、野生ではそれが最低限必要な条件であつて、それさえ満たされていけばそれ以上はなにもいらないようですね。動物園や水族館のような飼育下では、餌は探さなくても勝手に出てくるわけですから、あと残つてるのはゆつくり休むことぐらい。彼らが動かないのは実は私たちが作り出した生活環境のせいなんです。

動く動物のおもしろさの発見を

福武 しかし、動かないといつても限度があるわけで、粘り強く観察していると、背伸びをしたり、寝る場所をかえてみたり、それぞ



れにモゾモゾしています。動くかどうかかわからないもの前でじつと待つなんて、無駄に思えるようなことですが、動物園や水族館は実はそういうことを積極的に楽しむ賢い場所なのだと思えます。

川那部 先の沖縄の水族館では、小学生や中学生を見かけました。多くのクラスでは先生が、水族館にいる時間は「やれやれ休める」と言う感じでしたが、いくつかのところは事前にも議論したらしい学習ノートを見ながら、水槽の前で生徒にそれぞれ、いろいろ質問を続けておられました。福武さんの本には、そういう役にも立ちそうなおもしろいところも、たくさんありますね。

福武 本を読んで楽しんでいただければ、それで十分なのですが、実は「お役立ち情報」もたくさん

盛り込んでいます。例えば魚のヒレ一つとっても、意味があるんですよ。タツノオトシゴは、ただぼーっとしているように見えますが、よく見ると透明なヒレが一生懸命に絶え間なく動いていて、後ろに流されそうなのになんかばつて前に向かって漂っていたり、まさに生きざまが形になつちやつたという感じで、それがわかつたときには「すげーっ、かっこいいっ」と思わず口に出して大感動してしまいました。そんな見つける楽しみと感動を本のオマケとして受け取っていただいているならば、作者として本懐です。ただ、「答えは自分で見つけてね」という作り手にしてあります。

川那部 それは、琵琶湖博物館のそもそもの考えとも共通しますね。答えは各自が、それぞれに出して下さるように、と。

福武 私自身も作品を仕上げるたびに体験することなのですが、たとえ答えまで遠回りしても、それは無駄なことではないと思えます。だから作品の中にもあえて近道は示さないように心がけています。

人それぞれのおもしろさの発見を

福武 動物園や水族館にしても、博物館にしても、ただ物があるだけではなくてその後ろには必ず「作っている人」がいる。だったら「見に行く人」も「いきつけの場所」を作って自分だけの特別な「発見」をし、その後ろにいる「作っている人」の気配も感じ取ってほしい

と考えています。十人十色というくらいですから、人の数だけ思いも違つ。「見に行く人」と「作っている人」が互いに、「私はこう感じたいけど、あなたはあなたのおもしろいところを探して」というふうになれば素敵ですね。そのためには両方とももっと努力が必要です。まず「見に行く人」はお気に入りの場所を見つけて何度も通つてほしいと思います。

川那部 野外で動物を観察する連中は、じつと待つて見えています。何度も何度も現地へ通つてね。園内や水槽内は、しょせん野外そのものではないにしても、その都度新しい発見があるはずですよ。

福武 私たちのすることにも必ず意味があります。私たちが取り囲む動物園や水族館、そして博物館にも意味がある。「飼われている生きものがかわいそう」と言う方もいらつしやいますが、生きものを展示することにもきつと意味がある。積極的に施設を利用することで、それぞれの存在意義を見いだしていただけるようになればいいなと思えます。

川那部 それが、福武さんが本を作りあげられる意義でもあるのですね。次には、何を対象にお描きになる予定ですか。
福武 植物園や博物館、ほかにも構想がたくさんあります。困っている最中です。

司会 今日はおもしろいお話をありがとうございました。次の福武さんの作品を楽しみにしています。